

事務事業チェックシート

事務事業No 117 事業名 資源リサイクル事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	4	自然と共生する環境にやさしい社会の形成
施策	2	循環型社会の形成
取組方針	1	ごみ減量の推進

事業種別	継続	
事業期間	H9 ~	
事業実施の根拠法令		
関連個別計画	一般廃棄物処理基本計画	
担当課・担当課長 (Tel)	一般廃棄物課	山下 幸宏 (435-1352)
関連課	収集センター北事務所、西事務所	

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計	一般会計	
	款	衛生費	
	項	清掃費	
	目	塵芥処理事業費	
	大事業	塵芥処理事業	
	事項	資源ごみリサイクル事業	

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
	市民が、廃棄物から再資源化できる物を分別し、ごみの減量化を進め、循環型社会の形成を目指すとともに、環境に配慮した市民生活の定着を目的とする。	市民が自ら再生可能な資源物として排出した、かん、びん、ペットボトル、紙、布を市が収集する。限りある資源物の再使用、再生利用をすることで、循環型社会の形成を目指し、環境負荷が軽減し、3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進等、廃棄物行政全体でごみ減量化の推進を行う。 平成25年10月からは新たな分別として小型家電等リサイクル事業を開始し、また、平成28年4月1日からプラスチック製容器包装は一般ごみとして収集し、基幹改良工事の済んだ青岸エネルギーセンターで焼却熱を利用して発電することで売電収入を得ることとする。 また最近では、古着の需要が高まってきており、古着のリユースができる流通市場が確立してきている。回収した布の大半がウエス (きれ) としてリサイクルされていたが、3Rの理念はリサイクルよりもリユースが重要であることから、平成28年度から、紙と布を別回収し、布を古着としてリユースできるように取り組んでいる。				
実施内容		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		一般家庭及び事業所から収集された下記量の資源ごみを資源化した。 かん 960.11トン びん 2808.34トン ペットボトル 1190.79トン 紙・布 4019.66トン プラスチック製容器包装 2462.49トン 小型家電等 192.33トン	一般家庭及び事業所から収集された下記量の資源ごみを資源化した。 かん 787.8トン びん 2644.58トン ペットボトル 1167.39トン 紙・布 3936.98トン プラスチック製容器包装 2363.65トン 小型家電等 189.27トン	一般家庭及び事業所から収集された下記量の資源ごみを資源化した。 かん 770.02トン びん 2505.91トン ペットボトル 1122.16トン 紙・布 1234.51トン 紙 1792.13トン 布 428.30トン 小型家電等 253.685トン	一般家庭から排出された資源物を回収し、資源化する。古着の需要が高まってきており、古着のリユースができる流通市場が確立してきている。回収した布の大半がウエス (きれ) としてリサイクルされている現在の状況であるが、3Rの理念はリサイクルよりもリユースが重要であることから、紙と布の別回収に取り組む。	一般家庭から排出された資源物を回収し、資源化する。古着の需要が高まってきており、古着のリユースができる流通市場が確立してきている。回収した布の大半がウエス (きれ) としてリサイクルされている現在の状況であるが、3Rの理念はリサイクルよりもリユースが重要であることから、紙と布の別回収に取り組む。

2 事業コスト

事業費等 (千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	142,124	122,382	137,391	123,565	43,859	34,175	40,619		40,619	
伸び率 (%)	-	-	▲3.3%	1.0%	▲68.1%	▲72.3%	▲7.4%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	2,463	2,153	2,153	2,496	2,793	3,651	3,514	3,514	
	正規職員以外									
小計	2,463	2,153	2,153	2,496	2,793	3,651	3,514		3,514	
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他	11,777	9,366	5,448	7,658	8,321	12,676	11,308		11,308	
一般財源 (税等)	130,347	113,016	131,943	115,907	35,538	21,499	29,311		29,311	
所要人数 (人)	正規職員	0.32	0.29	0.29	0.33	0.38	0.46	0.44	0.44	
	正規職員以外									
主な予算内訳	手数料 40,500千円 他									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			目標値	実績値	達成度 (%)	目標値	実績値
活動指標		回	目標値				
			実績値				
			達成度 (%)				
活動指標		回	目標値				
			実績値				
			達成度 (%)				
成果指標	一般廃棄物のリサイクル率	%	目標値	13.2	14.2	9.44	10.59
			実績値	9.376	9.25	7.53	
			達成度 (%)	71.1%	65.1%	80.0%	
成果指標			目標値				
			実績値				
			達成度 (%)				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない	○ 見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実		○		
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	平成23年7月から雑がみを紙・布として分別収集を開始し、収集資源を再生利用する取組が進んでいる。また、平成28年4月からは新しい分別収集による資源の有効活用を図る。
見直し・改善内容	和歌山市一般廃棄物処理基本計画により、平成32年度目標とした対平成22年度比総ごみ量約30%減を目指し、様々な取組を行っている。また、平成28年4月からは、今まで分別収集していたプラスチック製容器包装を、週2回の一般ごみとして回収し、焼却することでごみ発電(熱回収)による有効活用を行っている。 また最近、古着の需要が高まってきており、古着のリユースができる流通市場が確立してきている。これまでは、回収した布の大半がウエス(きれ)としてリサイクルされていたが、3Rの理念はリサイクルよりもリユースが重要であることから、平成28年度より紙と布の別回収に取り組んでいる。